



◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通表彰し關係地方廳に其の傳達方を依頼した。

▲昭和十七年二月十一日

表彰狀、二等功績章、單杯	和歌山縣土木工夫	西本 吉藏	表彰狀、二等功績章、單杯	滋賀縣栗田郡金勝村道路愛護會
"	"	西畑菊太郎	"	"
"	"	西本徳太郎	"	"
"	"	森 吉松	"	"
"	"	上仲新太郎	"	"
"	福島縣道路工夫	鹽田 潤彌	"	"
表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯	宮崎縣道路工夫	井上 豊吉	"	"
表彰狀、二等功績章、單杯	"	矢口 宗吉	表彰狀、二等功績章、單杯	宮城縣本吉郡階上村道路保護組合
"	"	川添 茂吉	"	"
"	"	菊地 嘉平	"	"
表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯	茨城縣道路工夫	茨城縣道路工夫	表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯	秋田縣道路工夫
表彰狀、二等功績章、單杯	"	"	表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯	齋藤 種作
"	"	"	"	工藤松之助
"	"	"	"	鎌田 三助
"	"	"	"	菅 末治
"	"	"	"	藤原 才吉
"	"	"	"	佐々木惣治郎
"	"	"	"	鈴木 兼吉
表彰狀、二等功績章、單杯	島根縣修路工夫	宗戸 清七	表彰狀、二等功績章、單杯	谷口作右衛門
"	"	西尾佐太郎	"	塚田 武夫
"	"	柏木 熊吉	"	高畑新之允
"	"	岡部 吉彌	"	助田 貫一
表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯	島根縣修路工夫	藤原和四郎	"	齋藤 種作
"	"	伊藤 權治	"	工藤松之助
表彰狀、二等功績章、單杯	"	吉野 元光	"	鎌田 三助
"	"	金山庄次郎	"	菅 末治
"	"	稻田 富藏	"	藤原 才吉
"	"	谷口作右衛門	"	佐々木惣治郎
"	"	塚田 武夫	"	鈴木 兼吉
"	"	高畑新之允	"	"
"	"	助田 貫一	"	"
"	"	齋藤 種作	"	"
"	"	工藤松之助	"	"
"	"	鎌田 三助	"	"
"	"	菅 末治	"	"
"	"	藤原 才吉	"	"
"	"	佐々木惣治郎	"	"
"	"	鈴木 兼吉	"	"

表彰狀、二等功績章、單杯 宮城縣修路工夫 渡邊 保

古山 憲治

伊藤勲右衛門

表彰狀

愛知縣知多郡鬼崎村北部國民學校道路愛護會

同縣 東加茂郡阿摺村道路愛護會

同縣 一宮市西成國民學校道路愛護會

同縣 八名郡大和國民學校道路愛護會

同縣 碧海郡矢作町青年團道路愛護會

表彰狀、一等功績章、三ツ組木杯 愛知縣修路工夫 伊藤 定吉

榎本 定藏

表彰狀、二等功績章、單杯

柴田 藤一

高須 健一

松山 茂

◎内務大臣湯澤三千男氏 二月十七日内務大臣交送し東條英機

氏は兼相を免ぜられ本會副會長内務次官湯澤三千男氏内務大臣に任ぜられた、氏は栃木縣出身、本年五十五歳、明治四十五年東大卒業後内務省に入り、宮城、廣島、兵庫の各縣知事を歴任、昭和十一年内務次官となり、同十二年二月退官、同十三年北支に赴き中國臨時政府内政顧問となり、その後大日本産業報國會理事長となつたが、東條内閣成立とともに東條兼攝内相のもとに次官に就任して今日にいたつた。

◎内務次官山崎巖氏 湯澤内務次官が大臣となられた後任とし

て本會理事山崎巖氏が内務次官となられた、氏は福岡縣出身、大正八年東大卒、長崎縣屬を振出しに内務省に入り岡田内閣のとき後藤内相の秘書官となり次いで社會局社會部長、厚生省社會局長を経て十三年十一月靜岡縣知事に轉出、半歳の後土木局長として本省に戻り、十五年一月米内閣の兒玉内相の下に警保局長となり間もなく退官したが、平沼内相の就任に伴ひ近衛第二次、第三次内閣の警視總監を歴任、昨年十月東條内閣出現とともに退き野にあつたが本年二月七日南方占領地に關する海軍の軍政顧問に就任した、本年四十九歳、前農相山崎達之輔氏の令弟である。

◎新舊内務大臣の挨拶 二月十七日省員一同第二會議室に集

合、省員の援助を謝し時局の益々重大なるを解きて内務行政の重要性を述べて湯澤氏の内務大臣となられたのは寔に結構な事である、省員の援助を謝し時局の益々重大なるを解きて内務行政の重大なる内務行政の爲私は湯澤新大臣と一體となつて盡力する考であると東條前内相は述べられ、湯澤新内相は次官としては努力したが大臣の重任に耐へ得るや否頗る危ふむ次第である、殊に内務行政の益々重大なる秋諸君一層の援助を乞ふと述べられ、飯沼神祇院副總裁省員一同を代表して夫々、答辭を述べられた。

◎新舊内務次官の挨拶 二月十八日第二會議室に於て新内務次官山崎巖氏は挨拶され成田地方局長一同を代表して答辭を述べられた。

◎湯澤内務大臣と山崎内務次官 湯澤内務次官は内務大臣となられたるにより本會顧問に山崎巖氏内務次官となられたるにより本會副會長に推薦委嘱せられた。

◎地方長官會議 政府は毎年議會終了後四月中に地方長官會議を開くのを例としてゐるが、今議會は貴衆兩院とも翼賛の實を擧げて政府提出豫算案並びに法律案全部の審議を終り十五日から自然休會に入ることとなつたので、本年はこの定例地方長官會議開催の期日を繰上げて三月上旬に開催、議會を通過成立した豫算並びに法律の趣旨を地方廳に徹底せしむるとともに来る四月三十日施行される衆議院議員總選舉對策を行ふことに決定、十四日内務省から各地方廳にこの通牒を發した、今次の長官會議は大東亞戰爭開始以來初の會議であり特に來るべき總選舉に臨むべき政府の翼賛選舉體制の具體的施策が明示されるだけに注目されてゐるが、一方各長官も大東亞戰下の各地方事情を會議席上に遺憾なく反映せしめて國策の運営に寄與せしむべく烈々の決意を藏してをり會議の成果を期待されてゐる。

◇三日(火) 午前九時(首相官邸參集) 東條首相訓示、同九時四十分參内。

◇四日(水) 午前九時(内務省參集) 外務省、同十時司法省、同十時半大藏省、午後一時内務省、各省會議を開く。

◇五日(木) 午前九時(内務省參集) 企畫院、同十時文部省、午

後一時半陸軍省及び海軍省、各省會議を開く。

◇六日(金) 午前九時(内務省參集) 厚生省、午後一時商工省、各省會議を開く。

◇七日(土) 午前九時(内務省參集) 遞信省、同十時鐵道省、同十一時拓務省、午後一時農林省、各省會議を開く。

政府は大東亞戰爭の完遂を目標にして清新強力なる翼賛議會の確立を期するため、今次總選舉對策として翼賛選舉貫徹運動基本要綱を決定したが、これが具體化をはかるため二月二十日政界、財界、軍部、言論界、農林團體等各方面の中心人物三十三氏に招請狀を發し、来る同二十三日午後二時より首相官邸に初會合をなした。尙翼賛政治態勢確立協議會は會長制を設けず阿部信行大將が座長となつて協議を進めたが、同協議會で取上げられた問題中特別のものについては隨時小委員會を設置して審議を行ふこととした。各界代表三十三氏左の如し。

陸軍大將 阿部 信行

大政翼賛會副總裁陸軍中將 安藤 紀三郎

貴族院議員男爵 井田 磐楠

農業報國聯盟會長 石黑 忠篤

大日本與亞同盟理事長 遠藤 柳作

衆議院議員 大藤 唯男

貴族院議員子爵 大河内正敏

貴族院議員 太田 耕造

衆議院議員 太田 正孝

衆議院議員 岡田 忠彦

貴族院議員 小倉 正恒

衆議院議員 勝 正憲

貴族院議員伯爵 兒玉 秀雄

陸軍大將 小磯 國昭

(旅行中につき交渉中)

貴族院議員 後藤 文夫

工業組合中央會々頭 伍堂 卓雄

帝國農會々長伯爵 酒井 忠正

貴族院議員 下村 宏

海軍大將 末次 信正

産業組合中央會々頭 千石 興太郎

海軍大將 高橋 三吉

(旅行中につき交渉中)

貴族院議員 瀧 正雄

新聞統制會々長 田中 都吉

貴族院議員 徳富 猪一郎

衆議院議員 永井 柳太郎

鐵鋼統制會々長 平生 飢三郎

産業設備警団總裁 藤原 銀次郎

日商會頭 藤山 愛一郎

衆議院議員 前田 米藏

貴族院議員男爵 矢吹 省三

衆議院議員 山崎 達之輔

日本銀行總裁 結城 豊太郎

大政翼賛會事務總長 横山 助成

◎評議員金杉英五郎氏 貴族院議員東京慈惠會醫科大學長醫學

博士金杉英五郎氏は一月二十六日死去せられ享年七十八歳。

◎小川平吉氏 元司法、鐵道大臣小川平吉氏は膽石病の處二月

五日逝去した享年七十四歳。

◎近刊圖書雜誌(寄贈交換)

◎土木學會誌(第二八卷一、二號)

◎セメント界彙報(第四〇七號)

◎大阪商工會議所月報(第四一六號)

◎鐵道之研究(第二一卷一二號)

◎自警(一月號)

◎汎交通(一、二月號)

(田邊平學氏)獨逸の防空其他)

◎東大陸(二月號)

◎觀光(一月號)

○水道協會雜誌(第一〇五號)

○土木滿洲(第一卷九號)

(津田藤德氏) 土木事業と機械力)

○都市問題(第三四卷二號)

○企畫(第四卷一〇號)

○土木工業(第四卷一號)

○法律時報(二月號)

○新民(第三七編二號)

○港灣(第二十卷二號)

○道路(第四卷二號)

(市川良正氏) 大東亞戰爭と道路、中澤安藏氏) 自動車輸送と

道路)

○清和(第九卷一號)

○河川(第一卷二號)

○地方行政(第九卷二號)

○石油時代(二月號)

×

×

×

×

乏しき生活

『乏しき生活』といふものは、噛みしめてみると、なか／＼味がある。

友人と會つて食糧の話でも出ると『醬油がなくて困つてるよ』『ちや少し分けやう』『ありがたい、では僕んところに小豆が少しあるから差上げやう』てなことで、忽ち有無相通、相互扶助となる。

食べ物を分け合ふほど『友情の極致』の發揮された時代が嘗て今迄あつたか。

書類靴のほか持つたことのない主人が、醬油瓶を掲げて歸る。小豆を持つて歸る。臺所に對して今は亭主が『内助の功』を致してゐる。

今日ほど『一家協力』の實踐された時代がまたとあらうか

一億一心の團結は、かうしたところから盛り上り、困苦缺乏に堪へ、質實剛健の氣風を振作するにいたるのだ。『家食しうして孝子出づ』の原理もこれだと思ふ。(筆娘郎)